

### 3級 【シーチング組み立て】傾向と対策

#### <地直し・布目>

- ・持参したシーチングが厚すぎたり薄すぎたり、糊のききすぎたもの・腰のなさすぎるものなど、シャツブラウスのシーチング組み立てに適さないものを使用したため、シーチングの仕上がりがうまくいかず減点されることが多いので、標準的なシーチングを購入し使用することが望ましい。シーチングの地直しが不完全なためにシルエットがうまく出ないこともあるので、試験以前の課題として適切なシーチングを正確に地直しをして、しわの出ないように持参するよう心掛けていただきたい。
- ・シーチングにパターンを描き写す方法として、パターンの上にシーチングをのせてトレースする方法が一般的であるが、パターンとシーチングの地の目を完全に合わせて、必要な個所にプッシュピンや文鎮で固定してトレースする必要がある。

#### <身頃>

- ・シーチングに写したパターン線に対して、正確に縫い代を記入した後に裁断する。できれば、所々に縫い代幅の線を引き、裁断することが望ましいが、部分的に縫い代幅が狭くなったり広がったりしているものが見られた。また、ギャザーを正しく止めていない為に、シルエットが崩れている物もあった。
- ・シャツブラウスであれば、1 cm前後の一定の縫い代幅を付けた状態で、切り込みを入れなくても収まる程度のカーブ線が縫いやすく、美しい仕上がりが期待できる。縫い代幅は正確に（裾・袖口は3～4 cm、他は1 cm程度）裁断し、アイロン処理することで実物の仕上がりに近いシルエットを出すことが可能と思われる。
- ・シーチングのピン打ちは決められた方法があるわけではないが、不正確なピン打ちでシルエットを崩すことは避けたい。一般的にシーチングのダーツ線や縫い目線は、どちらか一方を折って重ね、片倒しの状態にとめることが多いが、上に乗る側のシーチングの折り目にピンを刺し、下のシーチングを少量（1 mm程度）すくってピン先を斜め上に出す方法が、ピンのあたりが少なくきれいな仕上がりになる。縫い目線に対しての方向は斜め・直角・平行など、止める角度に正解があるわけではないが、ピンを止めたことによってシーチングのシルエットを崩している場合は減点の対象になる。
- ・シーチングの縫い代を片倒しの状態にピン打ちする場合、どちら側を上に乗せるかについても正解があるわけではなく、結果としてシーチングが美しく表現されていればよい。例えば、前身頃のサイドダーツを止める場合、下側のダーツ線を折り、上側の線に乗せて止めると、縫い代は下側に倒された状態であるが、この場合はダーツ下の身頃が上乗りになっているために膨らみがきれいに出る。逆に縫い代を上に乗せた場合、上側のダーツ線が上乗りになっているので、ダーツの上部の膨らみがきれいに、デザインのポイントがどちら側にあるのかを考えて決めることが望ましい。  
今回はヨークを上にしてギャザーを止めるのが望ましい。
- ・組み立てたブラウスをボディに着せ付けをする場合、前中心・後ろ中心を合わせ、シーチングが着崩れないように、必要な個所にピン打ちすることが望ましい。前後中心がずれないようにネックライン付近やヒップの高い位置をダブルピンでボディにしっかり止め、衿の外回りも動かないようにする。

#### <衿・衿付け>

- ・衿の地の目はたて地、よこ地でもよいとされているが、本来のシーチング組み立ての目的であるパターン修正に適した方法としては、後ろ中心をたて地にしたほうが適切と思われる。

- ・ 衿の外回りの縫い代は裁ち切りでもよいとされているが、特別な場合（微妙なカーブ線や形状の場合）以外は裁ち切りにはせず、縫い代が浮き上がらないようにアイロンでしっかり折り込み、ピン打ちをしないほうが望ましい。衿付け線のピン打ちは、縫い目線のきわを衿付け線に沿って平行に止めるべきである。

#### <袖・袖付け>

- ・ 袖付けのピン打ちは、縫い目線のきわを袖付け線に沿って平行に止めるべきであるが、ピン打ちの不備のために袖のシルエットを崩してしまったものが多かった。
- ・ 袖山が身頃アームホール寸法より小さいため、身頃がいせ込まれてしまい、しわが出ている物もあった。
- ・ 今回は絵型の身頃の袖ぐりにステッチがないので、イセの少ない袖高の袖であるが、身頃高になっている物もあり合格の範囲ではあるが、身頃に無理が掛かりしわの原因となっている。

#### <ボタン（身頃）>

- ・ ボタン位置とバランスは、ほぼよくできていたと思われるが、まれにボタンの数の間違いや大きすぎるもの、小さすぎるものもあった。

#### <ステッチ>

- ・ パターン上のステッチはパターンの端と端に記入されていればよいが、シーチング組み立てにおいては、すべて記入されているべきである。
- ・ ステッチが途中までのものや、ステッチ幅が不備なため、減点されたものがあった。